

「第26回 愛媛県勤労者定期観測調査」報告書

（2024年5月調査）

2024年9月26日

〔はじめに〕

一般社団法人愛媛県労働者福祉協議会では、愛媛県内勤労者の福祉を推進するための基礎資料を得ることを目的に、県内勤労者を対象にした景況調査を実施しています。当報告書では、2024年5月に実施した「第26回愛媛県勤労者定期観測調査」の結果を報告します。調査にご協力いただきました加盟団体・事業所様、並びにご回答いただきました皆様にお礼申し上げます。

〔調査概要〕

- ① 調査名称：愛媛県勤労者定期観測調査（愛媛県勤労者短観）
- ② 調査対象：一般社団法人愛媛県労働者福祉協議会に登録する97団体・事業所の勤労者
- ③ 調査項目：勤労者の景況感、仕事の現状、暮らし向き等
- ④ 調査実施期間：年2回5月・11月、第26回調査2024年5月1日～5月31日
- ⑤ 回答数：第26回調査登録者数：426名、回答者数：336名、有効回答数：334
- ⑥ 調査方法：質問票によるアンケート調査（郵送調査法）

〔総括〕

愛媛県内勤労者が見た県内景況は、前回第25回調査（2023年11月）では「やや減速」という結果になったが、今回第26回調査（2024年5月調査）では回復という結果になった。賃金収入が「増えた」の回答割合は調査開始以来最も大きくなった。一方で、勤労者の物価上昇感の高止まりしている。

〔主な調査結果〕

- (1) **景況** 全業種で見た「経営状況DI」は上昇した。業種別では、製造業、非製造業のDIが上昇した。規模別では、従業員数1000人以上、100～999人、99人以下のDIが上昇した。（p.3）
- (2) **物価** 「身の回り物価DI」は、前回調査より僅かに減少したものの、80.5ポイントと高水準にある。（p.6）
- (3) **賃金収入** 全業種で見た「賃金収入DI」は上昇した。業種別では、製造業、非製造業のDIが大幅に上昇した。（p.8-9）
- (4) **世帯収入・支出** 世帯収入が「増えた」の回答割合、世帯支出が「増えた」の回答割合、および、「世帯収入DI」、「世帯支出DI」は調査開始以来最も大きくなった。（p.12）

第26回 愛媛県勤労者短観調査 回答者属性

アンケート有効回答数	334
------------	-----

性別	人	%
男性	245	73.4
女性	89	26.6

年齢構成	人	%
20歳代	15	4.5
30歳代	81	24.3
40歳代	117	35.0
50歳代	90	26.9
60歳以上	31	9.3

家族構成	人	%
1..あなた(①)	52	15.6
2..あなた/親(①④)	28	8.4
3..あなた/親/その他(兄弟)(①④⑤)	6	1.8
4..あなた/子ども(①③)	10	3.0
5..あなた/子ども/親(①③④)	3	0.9
6..夫婦(①②)	52	15.6
7..夫婦/子ども(①②③)	164	49.1
8..夫婦/親(①②④)	1	0.3
9..夫婦/子ども/親(①②③④)	13	3.9
10..その他(それ以外の組み合わせ)	4	1.2
NA	1	0.3

居住地	人	%
東予	137	41.0
中予	154	46.1
南予	38	11.4
その他	5	1.5

勤務地	人	%
東予	143	42.8
中予	152	45.5
南予	39	11.7

勤続年数	人	%
5年未満	27	8.1
5年以上15年未満	95	28.4
15年以上25年未満	116	34.7
25年以上	96	28.7

勤続年数	
平均(年)	18.7
中央値	18
最頻値	18

従業員数	人	%
9人以下	30	9.0
10~49人	16	4.8
50~99人	22	6.6
100~499人	41	12.3
500~999人	106	31.7
1000人以上	119	35.6

業種	人	%
民間製造業	118	35.3
民間非製造業	162	48.5
公務員	25	7.5
その他(医療、福祉団体等)	29	8.7

就業形態	人	%
正規	307	91.9
非正規	25	7.5
NA	2	0.6

労働時間	人	%
20時間未満	11	3.3
20~30時間未満	10	3.0
30~40時間未満	69	20.7
40時間	62	18.6
41~50時間未満	122	36.5
50~60時間未満	42	12.6
60時間以上	18	5.4

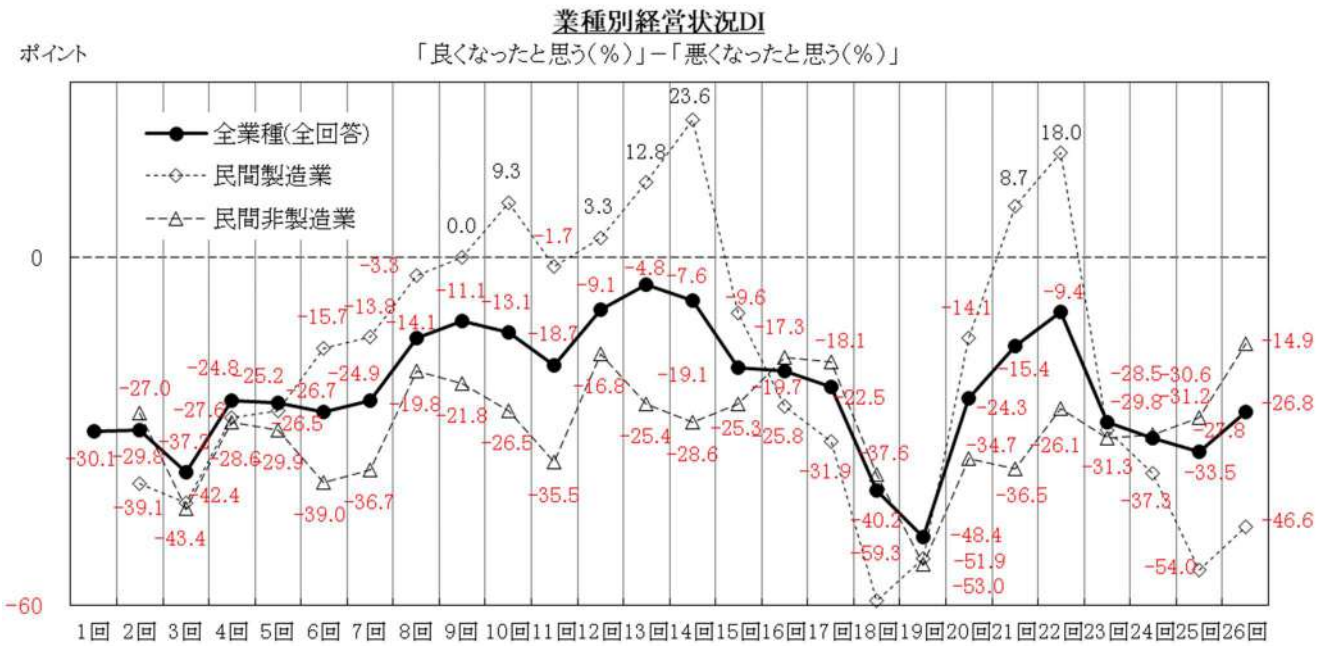
年収	人	%
200万円未満	12	3.6
200万円~400万円未満	65	19.5
400~600万円未満	132	39.5
600~800万円未満	93	27.8
800万円以上	28	8.4
NA	4	1.2

世帯の就労状況	人	%
あなただけが働いている	126	37.7
あなた以外に、フルタイム就労者あり	117	35.0
あなた以外に、パートタイム就労者あり	76	22.8
あなた以外に、フルタイム・パートタイム就労者あり	15	4.5

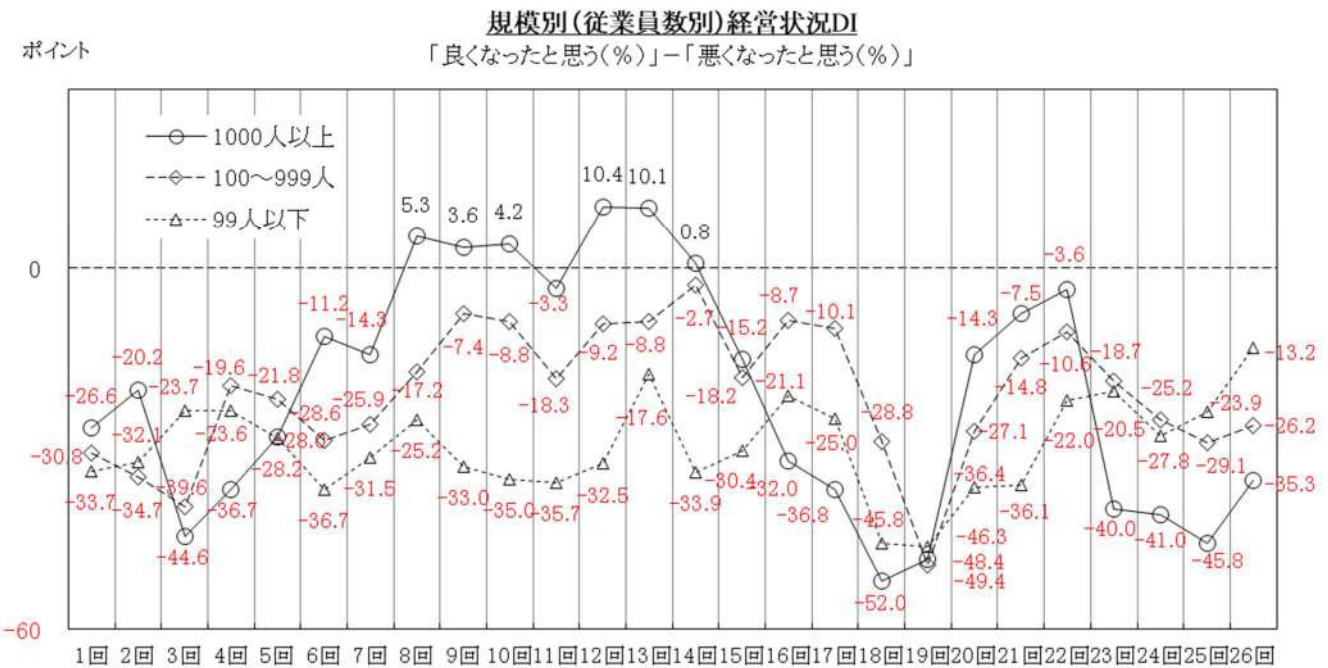
[調査結果]

1. 勤め先の経営状況(問1の結果)

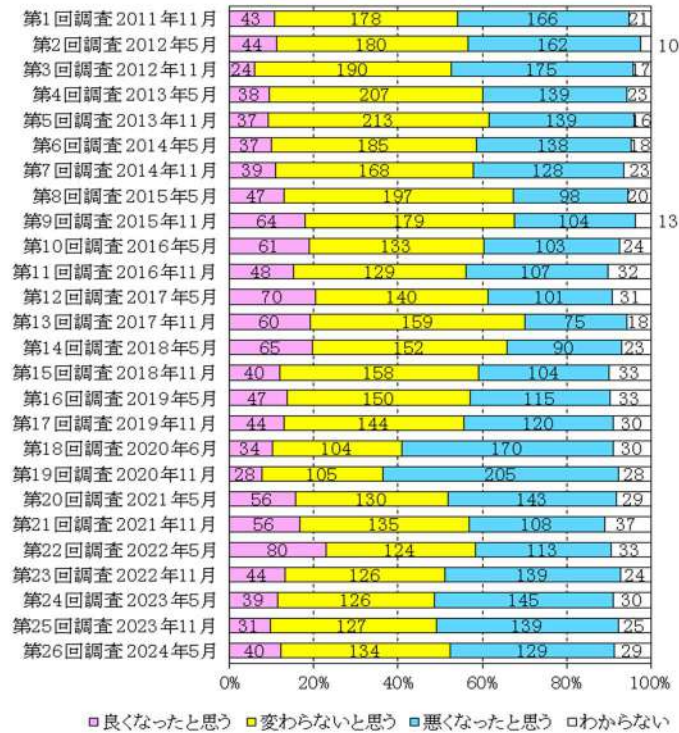
全業種で見た「経営状況DI」は上昇した。業種別では、製造業のDIが7.4ポイント、非製造業のDIが12.9ポイント上昇した。規模別では、従業員数1000人以上のDIが10.5ポイント、100~999人のDIが2.9ポイント、99人以下のDIが10.7ポイント上昇した。



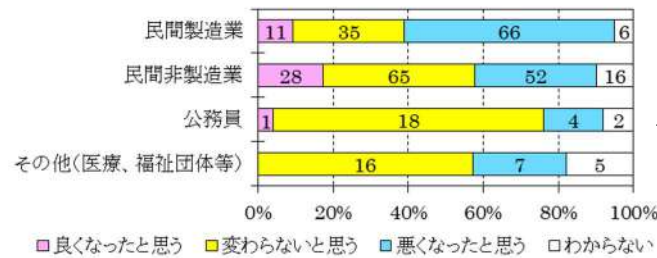
(注)全業種は、民間製造業、民間非製造業、公務員、その他(医療、福祉団体等)からなる。上のグラフでは、見つからないため公務員とその他の系列は載せていない。



問1 勤め先の現在の経営状況(1年前と比べて)

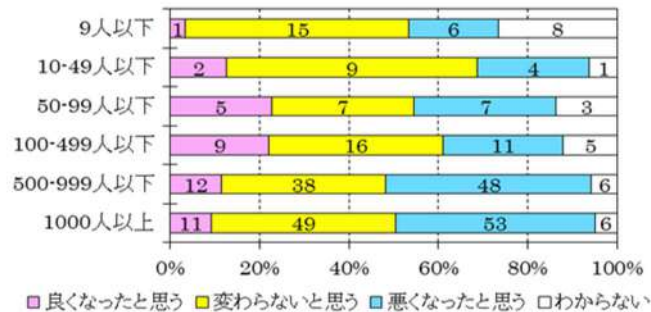


業種別に見た勤め先の経営状況(1年前と比べて)

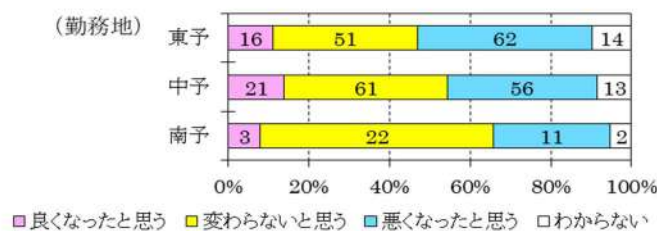


製造業で「悪くなったと思う」の回答割合が大きい。

従業員数別に見た勤め先の経営状況(1年前と比べて)



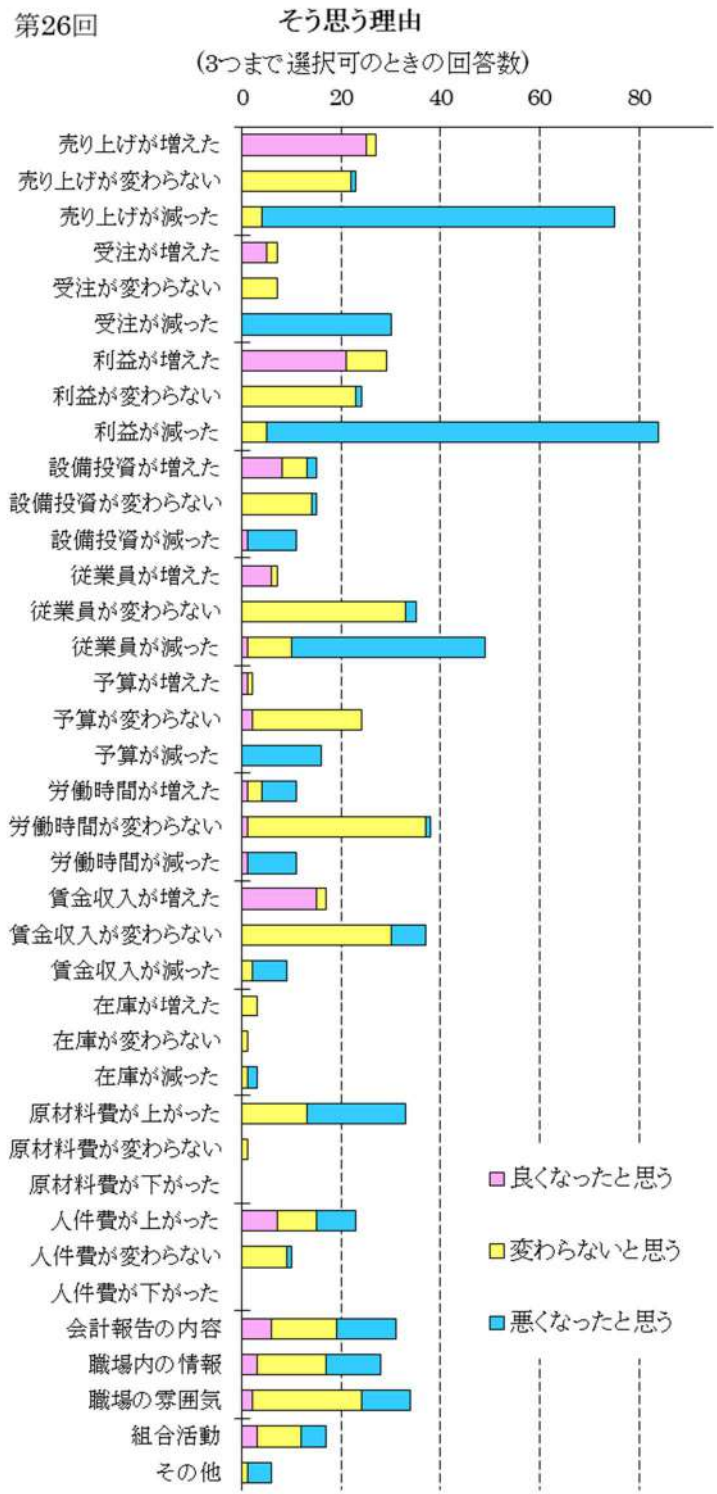
勤務地別に見た勤め先の経営状況(1年前と比べて)



東予で「悪くなったと思う」の回答割合が大きい。

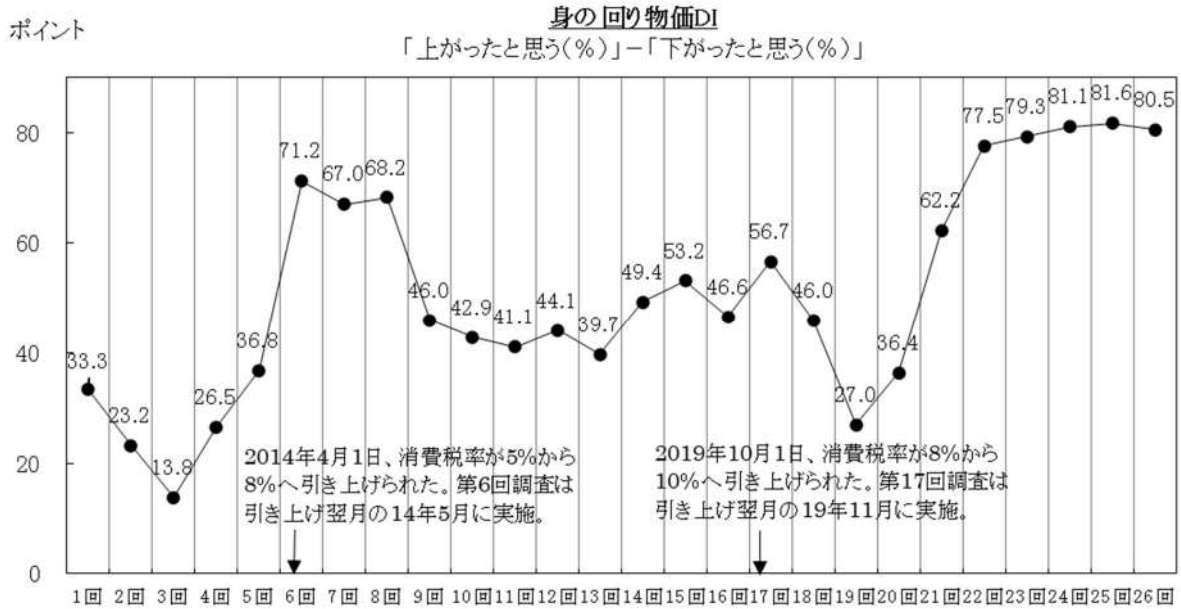
1-1. 勤め先の経営状況について、「良くなったと思う」理由、「悪くなったと思う」理由

今回調査では、前回調査同様に「悪くなったと思う」理由が目立つ回答になった（背景色が水色の横棒）。「悪くなったと思う」理由は、多い方から「利益が減った」（回答数79）、「売上げが減った」（71）、「従業員が減った」（39）、「受注が減った」（30）、「原材料費が上がった」（20）であった。

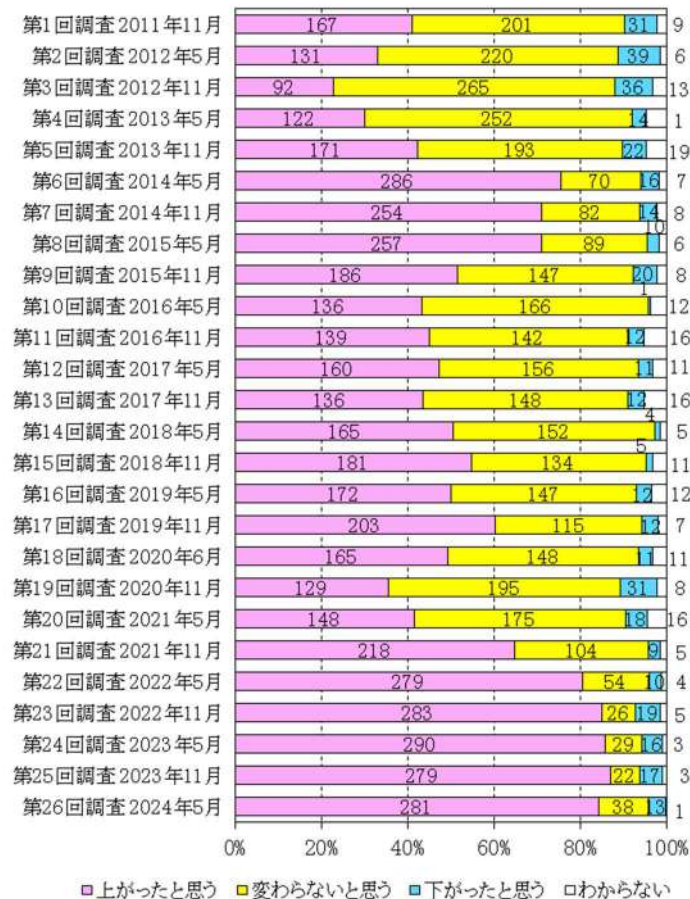


2. 物価（問2の結果）

「身の回り物価DI」は80.5ポイントであり、日常生活に関連した商品やサービスの価格は1年前と比べて「上がったと思う」の回答割合は84.4%であった。前回調査同様に勤労者の物価の上昇感
は高止まりしている。



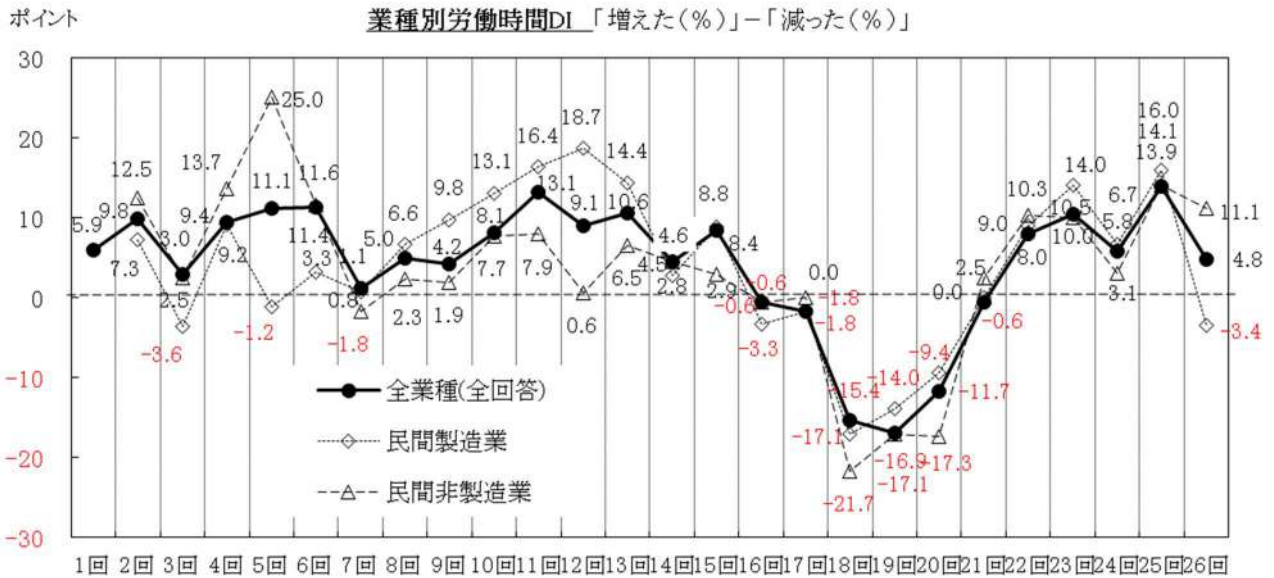
問2 日常生活に関連した商品やサービスの価格(1年前と比べて)



身の回りの物価が「上がったと思う」の回答割合は高水準を維持している。

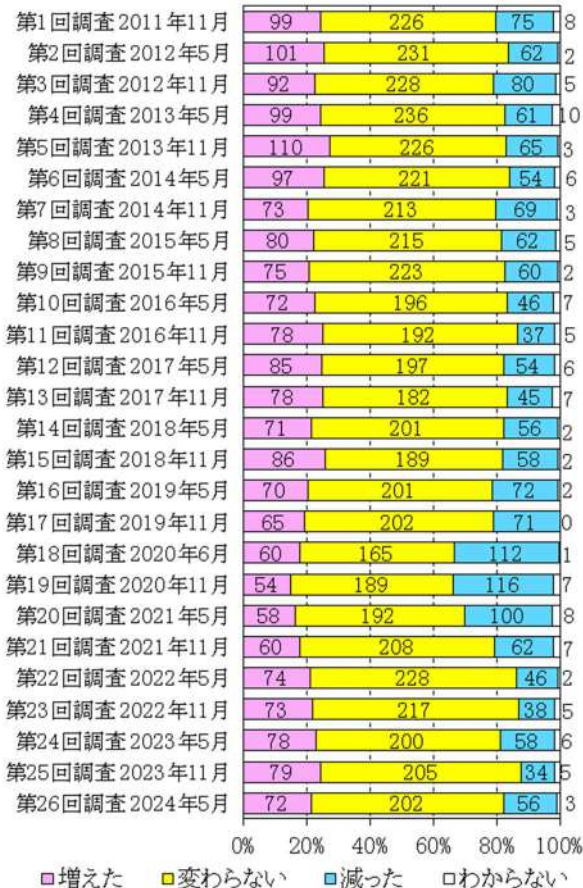
3. 実労働時間 (問3の結果)

全業種で見た「労働時間DI」は9.1ポイント下落した。経営状況と労働時間には相関が見られる(右中ほどのグラフを参照)。

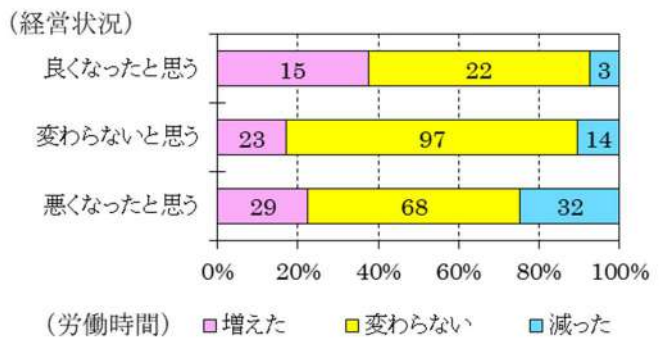


(注)全業種は、民間製造業、民間非製造業、公務員、その他(医療、福祉団体等)からなる。

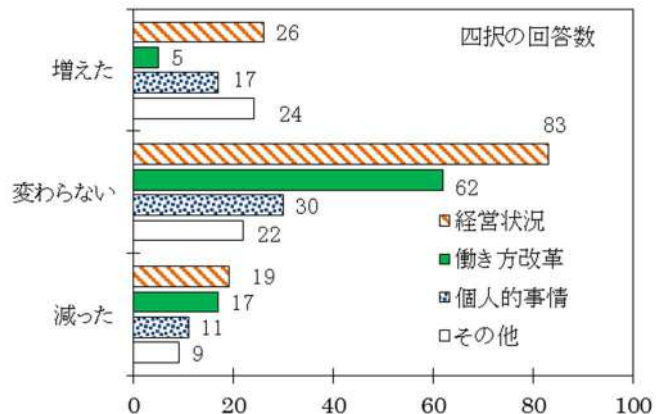
問3 最近の実労働時間 (全業種、残業・休日出勤を含む、1年前と比べて)



経営状況別に見た労働時間の変化(1年前と比べて)

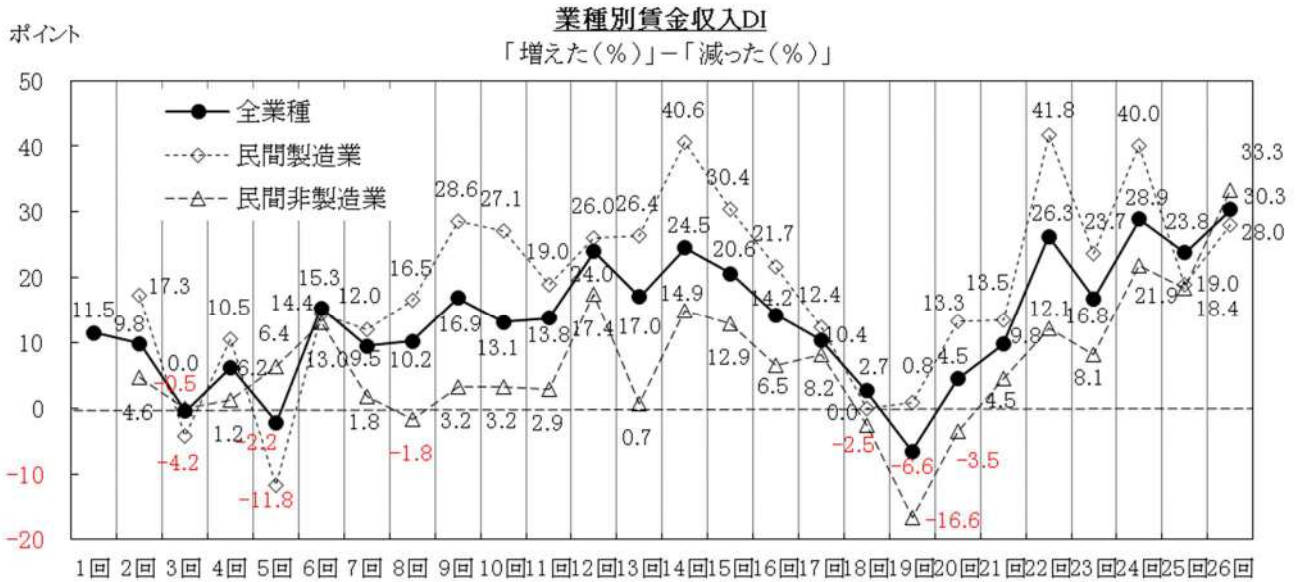


労働時間の増減別に見た変化の理由

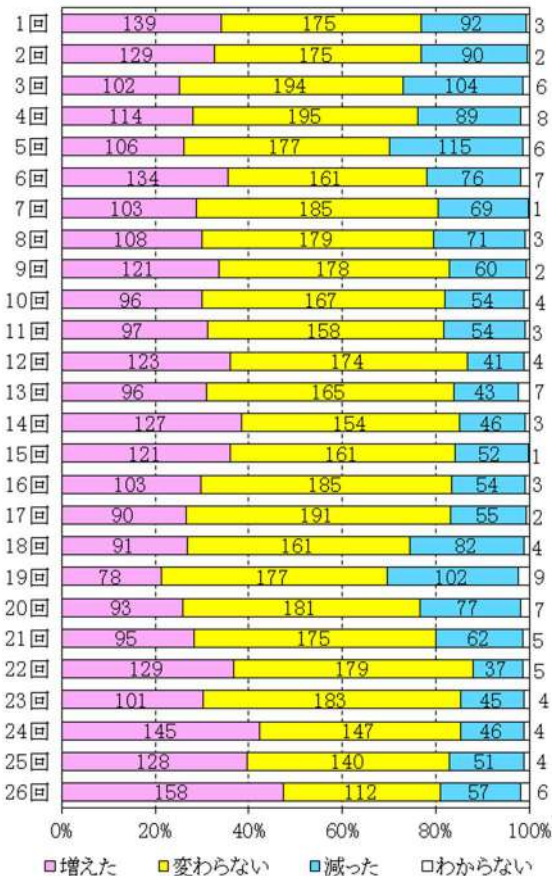


4. 賃金収入（問4の結果）

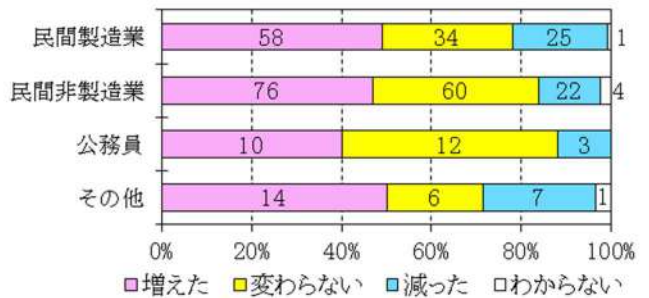
賃金収入が「増えた」の回答割合は調査開始以来最も大きくなった。全業種で見た「賃金収入DI」は上昇した（6.5ポイント上昇）。業種別では、製造業のDIが9.0ポイント上昇し、非製造業のDIが14.9ポイントと大幅に上昇した。ただし、すべての業種や年齢層で増えたわけではない。



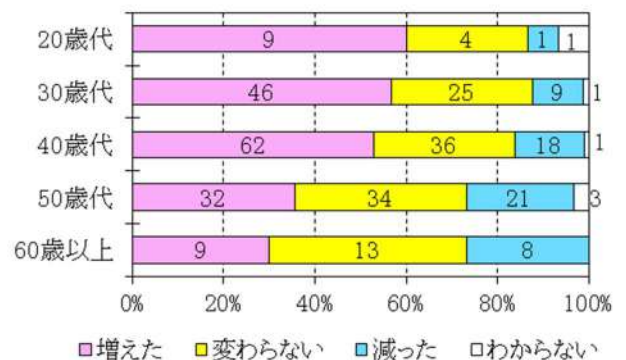
問4 あなたの賃金収入(1年前と比べて)



業種別に見た賃金収入の変化(1年前と比べて)



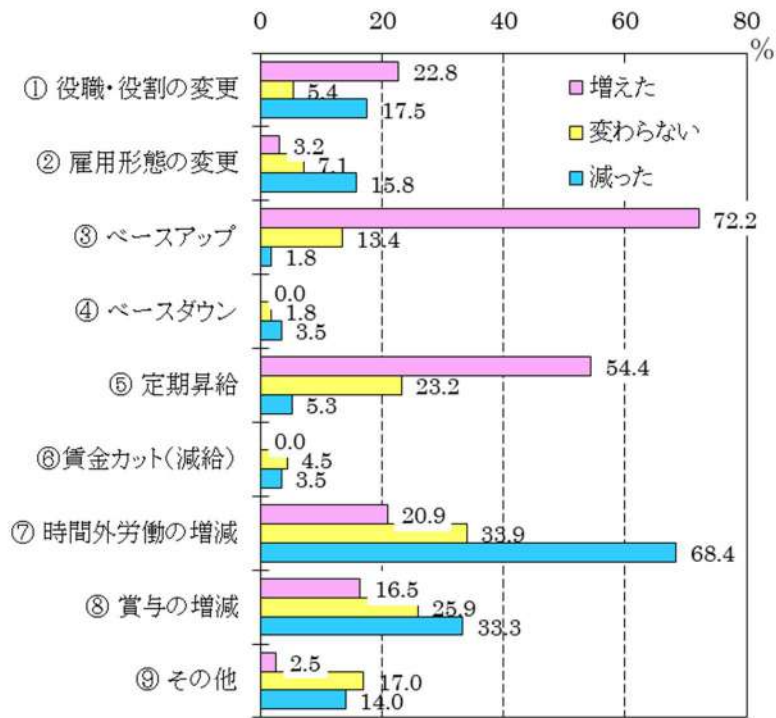
年齢別に見た賃金収入の変化(1年前と比べて)



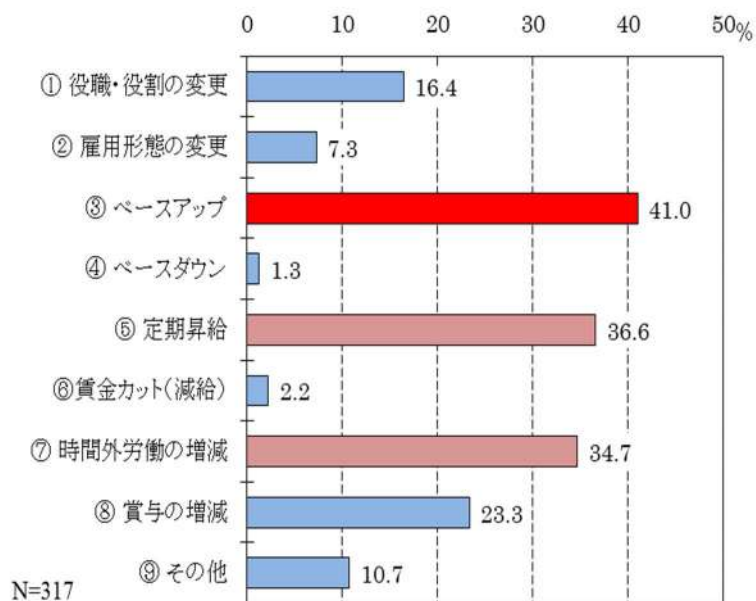
4-1. 「賃金収入の増減」でそう思う主な理由（3つまで選択可）

賃金収入が「増えた」を選んだ回答（47.4%）のうち、その理由として「ベースアップ」72.2%と「定期昇給」54.4%が多かった。賃金収入が「減った」を選んだ回答（17.1%）のうち、「時間外労働の増減（減少）」68.4%、「賞与の増減」33.3%が多かった。

問4-1 賃金収入増減の主な理由(3つまで選択可)(賃金増減別選択率)

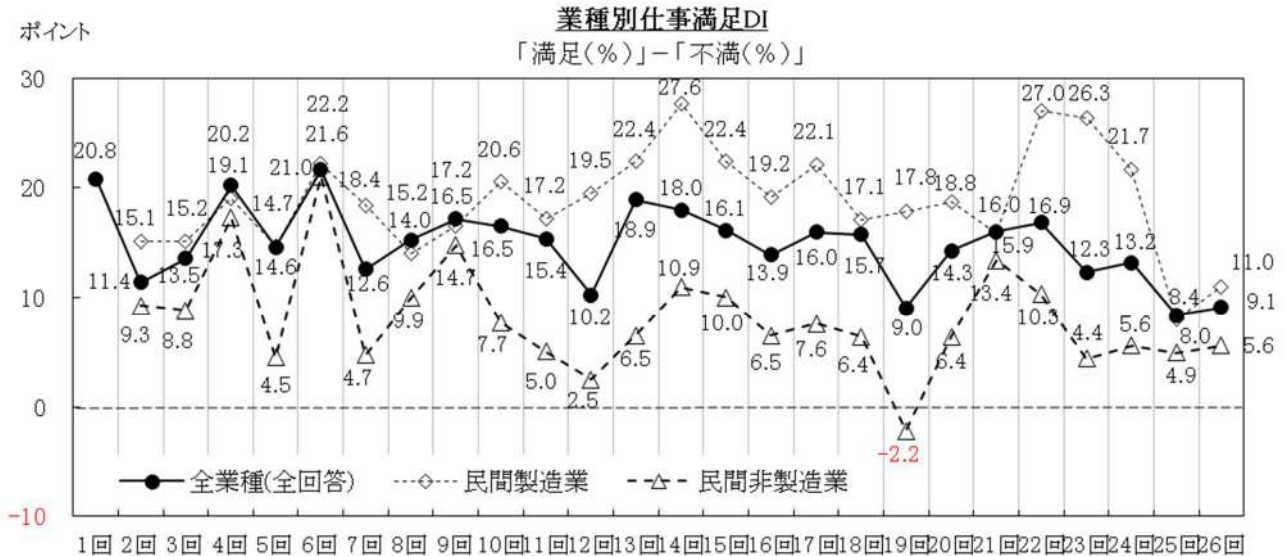


問4-1 賃金収入の変化の主な理由(3つまで選択可)(全回答に占める選択率)



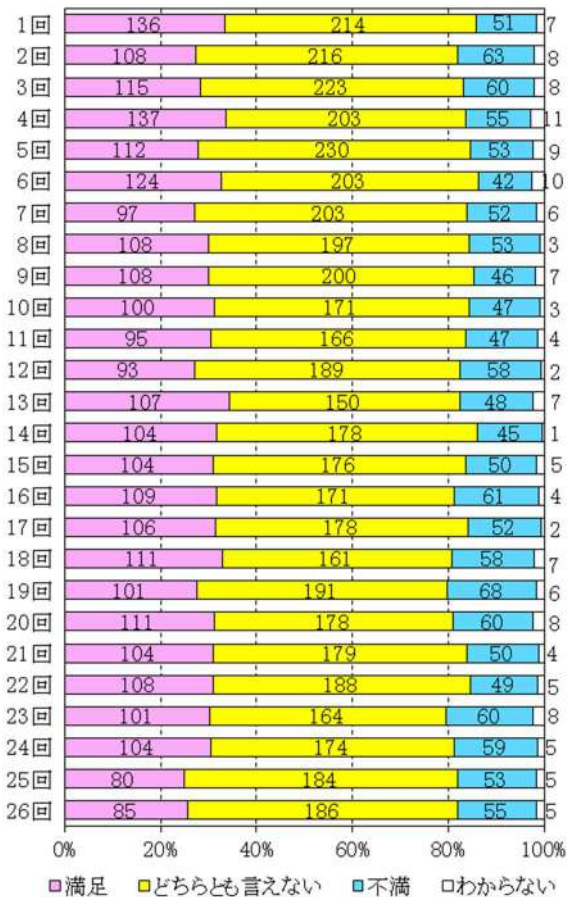
5. 勤め先の仕事の満足感(問5の結果)

前回調査と同様に、勤め先での仕事について「満足」の回答割合が小さくなったが、全業種で見た「仕事満足DI」はほぼ横ばいに推移していた(全業種で0.7ポイント、製造業で3.0ポイント、非製造業で0.7ポイント上昇)。「仕事の満足感」と「賃金収入の増減」との間に、また「仕事の満足感」と「勤め先の経営状況判断」との間に関連性が見られた。

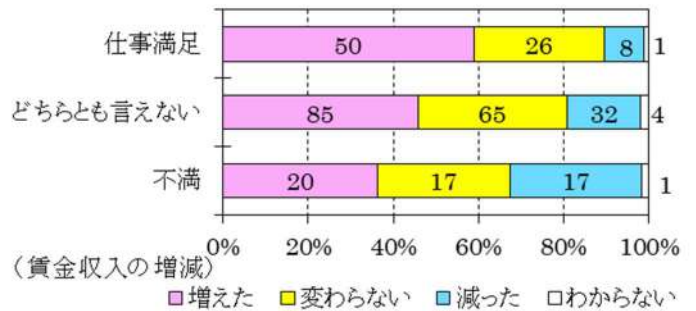


(注)全業種は、民間製造業、民間非製造業、公務員、その他(医療、福祉団体等)からなる。

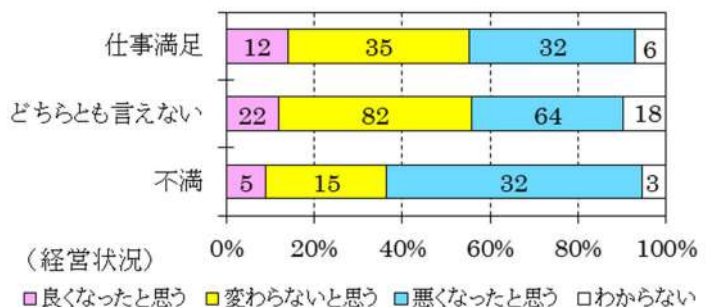
問5 現在の仕事の満足感



仕事の満足感別に見た賃金収入の増減



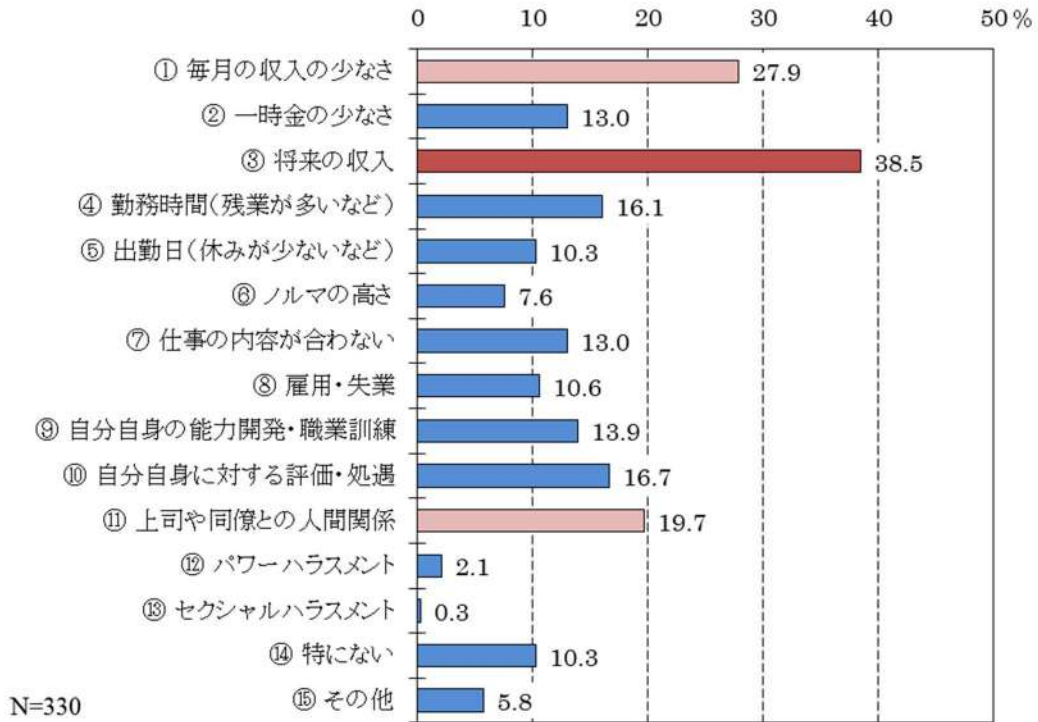
仕事の満足感別に見た経営状況判断



6. 仕事の不安・悩み（問6の結果）

仕事に関連した不安・悩みとして、「将来の収入」38.5%、「毎月の収入の少なさ」27.9%、「上司や同僚との人間関係」19.7%の回答が多かった。

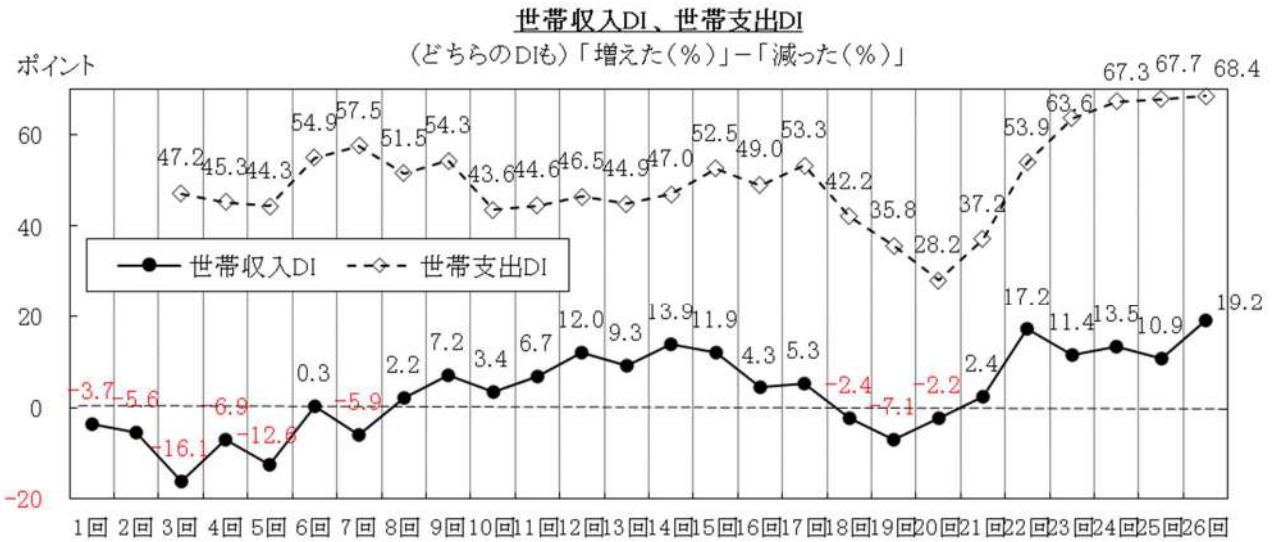
問6 仕事に関連してこの半年特に不安に思ったこと・悩んだこと（3つまで選択可）



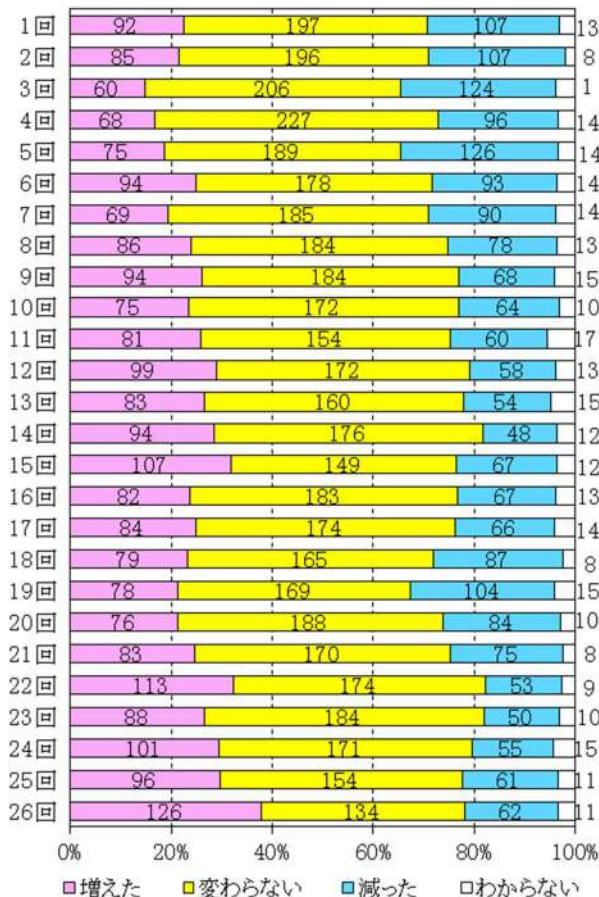
〈暮らし向きについて〉

7. 世帯全体の収入、支出（問7、問8の結果）

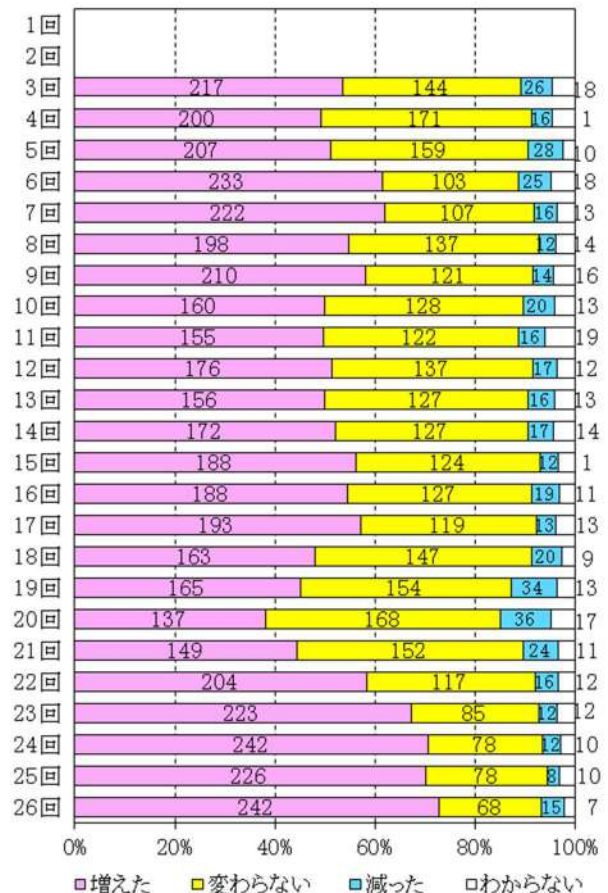
回答者の約38%が世帯収入が「増えた」と答え（左下グラフ）、約73%が世帯支出が「増えた」と答えた（右下グラフ）。前回調査に対し、今回調査では、「世帯収入DI」（次グラフの下の折れ線）は8.3ポイント上昇し、「世帯支出DI」（次グラフの上の折れ線）は高い水準のままほぼ横這いであった（0.7ポイント上昇）。



問7 世帯全体の収入(1年前と比べて)

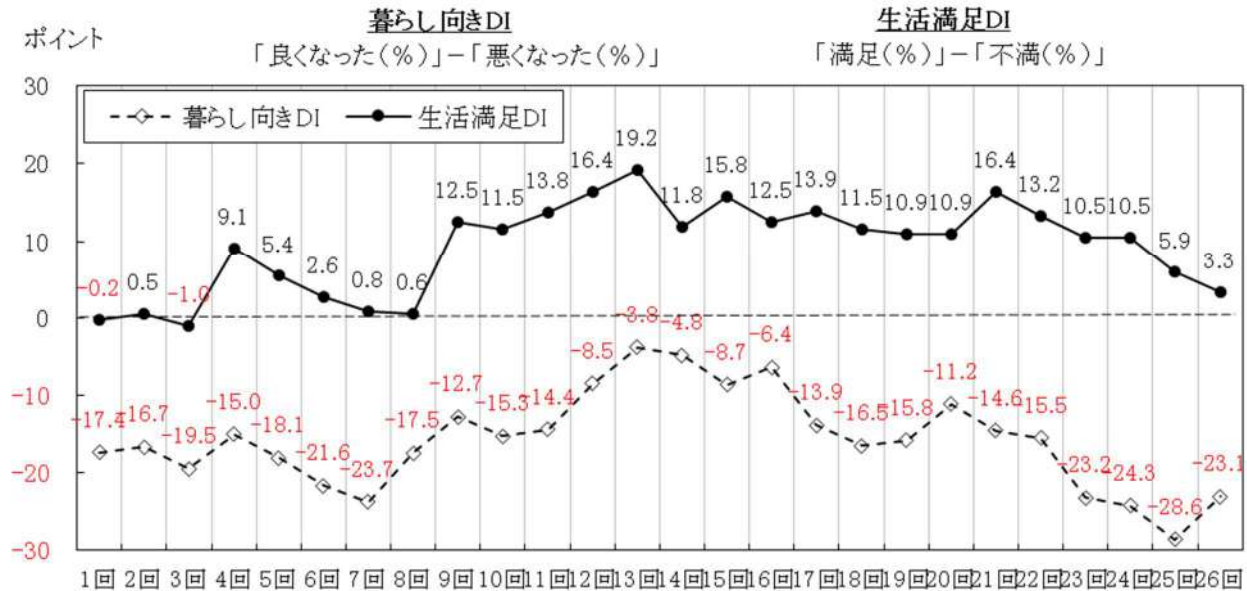


問8 世帯全体の支出(1年前と比べて)

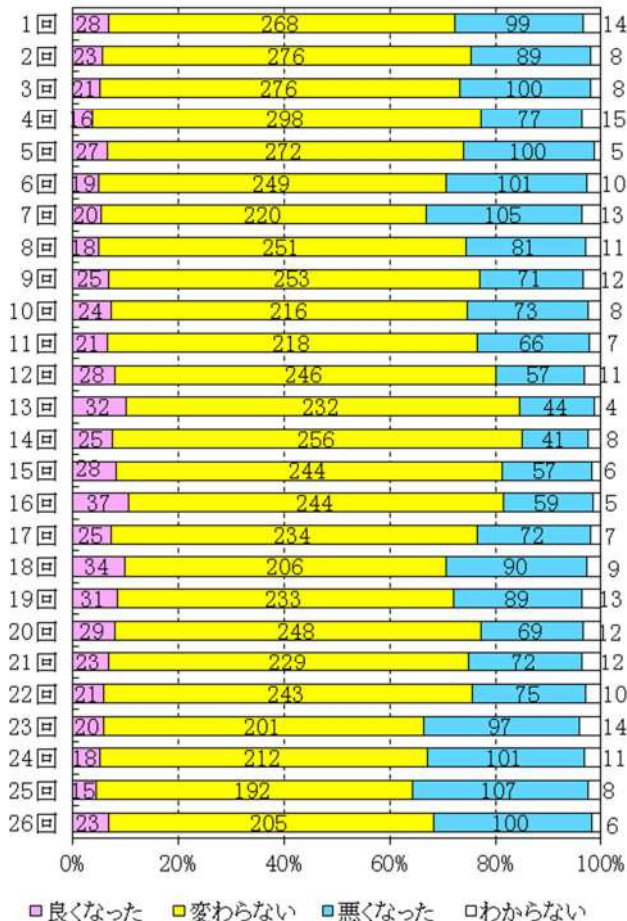


8. 世帯の暮らし向き（問9の結果）

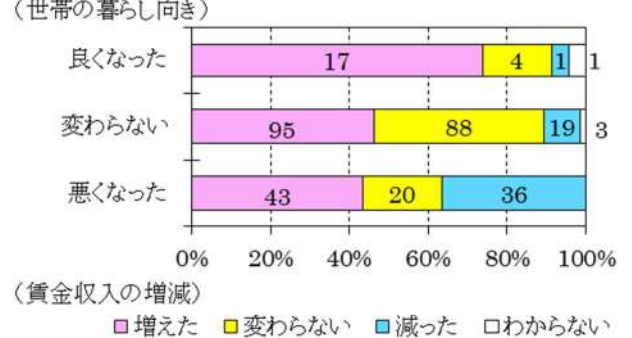
第21回（2021年11月）調査以降、「世帯の暮らし向きDI」が下落し続けていたが、今回調査では上昇に転じた（次グラフの下の線）。「世帯の暮らし向き」と「賃金収入の増減」や「勤め先の経営状況」との間に関連性が見られた。



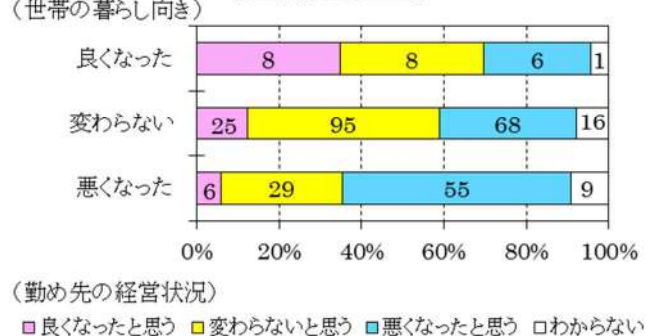
問9 世帯の暮らし向き(1年前と比べて)



世帯の暮らし向きと賃金収入の増減
(1年前と比べて)



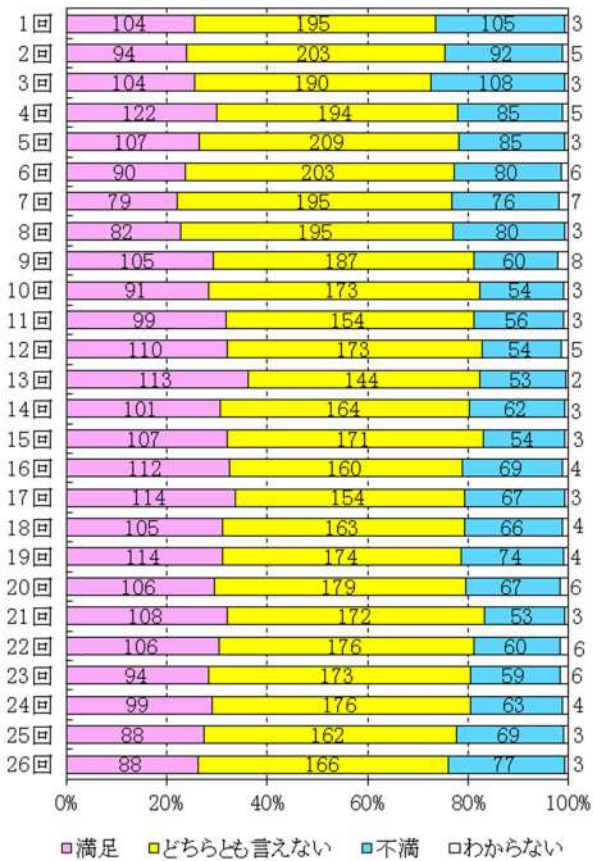
世帯の暮らし向きと勤め先の経営状況
(1年前と比べて)



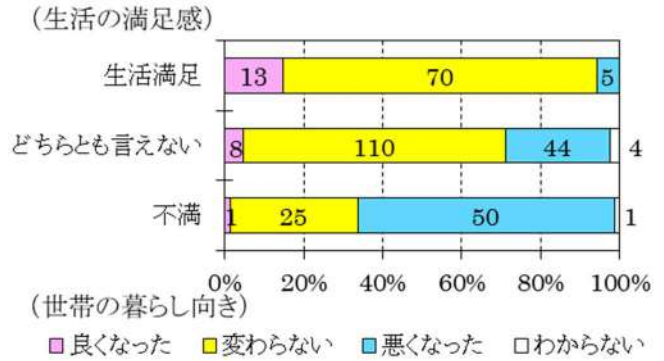
9. 生活の満足感（問10の結果）

「生活満足DI」（前掲グラフの上の実線）は2.6ポイント下落した。これまでの調査結果と同様に、「生活の満足感」と「世帯の暮らし向き」「世帯収入の増減」「仕事の満足感」との間に関連性が見られた。

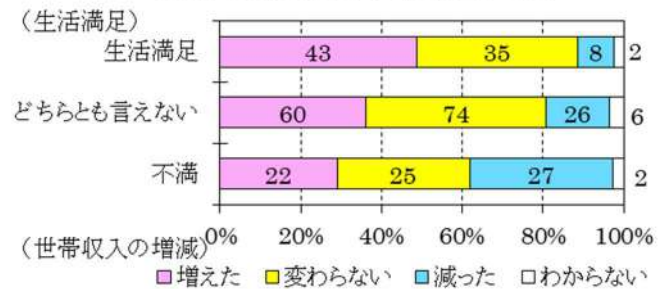
問10 現在の生活の満足感



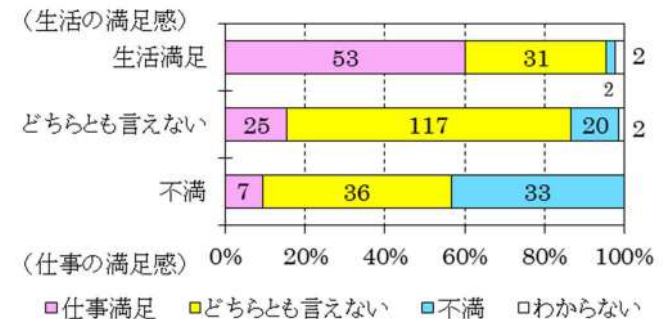
生活の満足感 と 世帯の暮らし向き



生活の満足感 と 世帯収入の増減



生活の満足感 と 仕事の満足感



10. 生活の不安・悩み（問11の結果）

前回調査と同様に、「預貯金など資産の少なさ」39.0%、「物価の変動」38.1%、「自分や家族の健康」37.2%が多かった。

問11 生活に関連してこの半年特に不安に思ったこと・悩んだこと（3つまで選択可）

